

# 幼児への接し方、遊び方

## 城南中3年生 交流通して学ぶ

新宮市立城南中学校の3年生は3日と4日、市立王子幼稚園を訪問し、子どもたちと遊戯や外遊びを通して触れ合った。家庭科の授業の一環で、実際に触れ合いを通して小さい子どもとの接し方や遊び方について学んだ。

日常生活の中で幼児に接する機会のない生徒に、関わる体験をさせ幼児の心身の発達や成長保育の意義や幼児への支援について考えることが目的。

3日は2組の生徒が同園を訪れ、遊戯室で体操をしたあと園児2人、中学生2人のグループに分かれ園庭や校庭を使い各チームごとにドッジボールや縄跳び、鬼ごっこなどをして楽しんだ。園児も中学生も最初のうちは緊張しているのか互いに遠慮した雰囲気でも遊んでいたが、すぐに打ち解けていた。

交流も終盤に近づくと、園庭よりも広い校庭を使い男女に別れて「ケイドロ」を行った。中学生は捕まえた園児の手を引いたり、抱き抱えたりして「連行」していた。交流が終わると生徒から担当した園児に折り紙製のメダルが送られた。園児たちはうれしそうにそれを受け取ると声をそろえて「ありがとう」とお礼を述べていた。

参加した和平萌さんは「日常生活ではまず子どもたちと接する機会がないのでとても楽しかった。最初は緊張してしまっただけで打ち解けることができて良かった」と笑顔。同じく河村伯空くんは「今回の授業を通して、子どもたちとの接し方や遊び方を学ぶことができた。みんな懐いてくれたので本当にうれしい」と話した。(尾崎涼)



園庭に出てドッジボールで交流



遊戯室で体操する生徒と園児